

## 令和5年度生薬学・天然物化学教科担当教員会議 議事録

日時: 令和5年9月2日(土)15時35分~16時50分

場所: Zoomによるオンライン開催

議題: 「新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムが目指す新しい薬学教育」  
に関する意見交換

出席者: 生薬学・天然物化学の教育を担当している教員 (90名、別紙リスト参照)

配布資料: なし

### 会議報告:

名古屋市立大学大学院薬学研究科臨床薬学教育研究センターの鈴木匡教授から「新しい薬学教育モデル・コア・カリキュラムが目指す新しい薬学教育」という演題でご講演いただいた。

「20年後の日本で薬剤師は活躍しているか」という問いかけから、今後どのような薬剤師が求められるのか、そのためにはどのような教育が必要であるかについてお話しいただいた。生薬学・天然物化学を担当する教員にとっては、授業で教える知識が薬学という大きな領域においてどのように関係しているのかを意識し、使える知識として学生に伝えることが重要である、とのこと。また、学生が「教わる」という姿勢から、周りの状況を理解して自分の頭で考え行動する、すなわち「主体的に考える」姿勢を身につけさせることが重要であるという話は、薬剤師を目指す学生のみならず、他の職種に就く学生にとっても重要なことと思われた。また、また、「人間関係形成能力」が重要であるという言葉は示唆にとんでいた。

参加した教員から、「今回のコアカリにおいて学生実習に関する記載がないのは何故か」という質問が出た。鈴木先生から「今回のコアカリは自由度があるので細かくは記載していない。今後、教員会議で標準的な内容を考えてもらう、とともに、よりよい実習を考えてもらう、という流れになっている」という説明があった。また、別な教員から「生薬学・天然物化学というのは各論的な内容が多いので、それをどのように体系化・概念化して教えたら良いか、についてアドバイスをもらえないか」という発言があった。それに対して鈴木先生から「生薬

学・天然物化学というのは直接医薬品・健康食品に関わっている。それが学生にとって体系化につながるし、学生にとって勉強する意欲にもつながる。どこに役に立つ知識であるのかを意識させることが重要である」という説明があった。

次年度委員長：市瀬 浩志 先生（武蔵野大学薬学部）

令和5年9月3日

委員長 熊本大学大学院生命科学研究部附属  
グローバル天然物科学研究センター  
塚本 佐知子